

日本労働年鑑 第53集 1983年版

The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

X 国際労働組合運動と日本

概要

一、一九八一年七月～一九八二年六月の時期には、新たに全印刷が国際製版印刷労連にオブザーバー加盟を決定し、運輸労連も国際運輸労連への加盟を決定した。このほか、私鉄総連が国際運輸労連に、紙パ労連が国際化学エネルギー一般労連に加盟の方向で検討が進んでいる。また、日林労、建設同盟、全化同盟は、国際建設林産労連に、全郵政は国際郵便電信電話労連に加盟を申請したが、まだ正式に承認されていない。また、FIET日本加盟組合協議会の設立、国際交流センターの発足、総評アフリカ事務所の設置などの動きもあった。

一、総評はひきつづき積極的中立政策によって、資本主義国労組と社会主義国労組のいずれとも、活発な交流をおこなっている。資本主義国労組との交流では、オーストラリアのACTU軍縮会議に出席し、アメリカとフランスに代表団を派遣し、CGT第一四回大会、CFDT第三九回大会、DGB第一二回大会、CGIL第一〇回大会、LO第二〇回大会の各労働組合大会に代表が参加した。来日したWCLの代表とも懇談した。社会主義国労組との交流では、中国、ベトナム、チェコ、ブルガリアに代表を派遣し、WFTU本部を訪問した。朝鮮、中国からは代表団が来日した。第一二回モンゴル労働組合大会、第一七回ソ連労働組合大会、第一〇回チェコ労評大会、第九回ブルガリア労評大会、第一〇回自由ドイツ労働総同盟大会、ポーランド労組「連帯」第一回大会に代表を派遣した。日ソ労働組合友好集会や日ソ労働組合交流委員会は、今までどおり開催されたが、日・ソ労働組合間の見解の相違は大きく、昨年につづいて今年も共同声明は採択されなかった。中立労連は、DGB代表団を招待し、総評も同代表団と懇談した。

一、同盟は、ICFTUの基調を支持する立場から、日本・韓国・台湾・香港四労組との定期会談、中華民国、西独、西欧諸国への代表団の派遣、「連帯」支援集会、第二回世界青年集会にとりくんだ。CFL全国大会、第二七回CWC大会、HISTADRUT年次大会、AFL・CIO一〇〇周年大会、DGB第一二回大会、TCO第一五回大会に代表を派遣した。また、中国からの代表団を招待し、来日したDGB代表団とも懇談した。

一、日本からの代表が出席した世界労連系の主要な会議には、WFTU第三二回総評議会（八一年七月、ブタペスト）、WFTU第二六回執行局会議（八一年一〇月、ブカレスト）、第八回運輸・港湾・漁業国際労働組合大会（八一年一〇月、ダマスカス）、多国籍製薬企業の横暴に関する国際労働組合会議（八一年十一月、モスクワ）、軍縮の社会的経済的諸問題に関する世界労働組合会議（八一年一二月、パリ）、第一〇回世界労働組合大会（八二年二月、ハバナ）などがあつた。

一、日本からの代表が出席した国際自由労連ならびにITS系の主要な国際会議としては、IUF第一九回世界大会（八一年五月、ミュンヘン）、ICFTU第七七回執行委員会（八一年七月、コペンハーゲン）、ARO臨時執行委員会（八一年七月、シンガポール）、ARO経済専門家会議（八一年八月、

バンコク)、PTTI第二四回世界大会(八一年九月、東京)、平和・安全保障・軍縮に関するJICFTU特別執行委員会(八一年十一月、ブリュッセル)、ICFTU第七九回執行委員会(八一年十一月、ブリュッセル)、IFB・WW第一六回世界大会(八一年十一月、マドリッド)、PSI世界大会(八一年十一月、シンガポール)、IFFTU第一三回世界大会(八一年十二月、パナマ・シティ)、ARO第四八回執行委員会(八二年二月、東京)、IMF第八回世界自動車会議(八二年四月、東京)、ICFTU第八〇回執行委員会(八二年五月、ブリュッセル)などがあった。

一、日本からの代表が出席したその他の国際労働組合会議としては、オタワ労組指導者会議(七一年七月、オタワ)、国際労連世界大会(八一年十一月、マニラ)があった。

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
